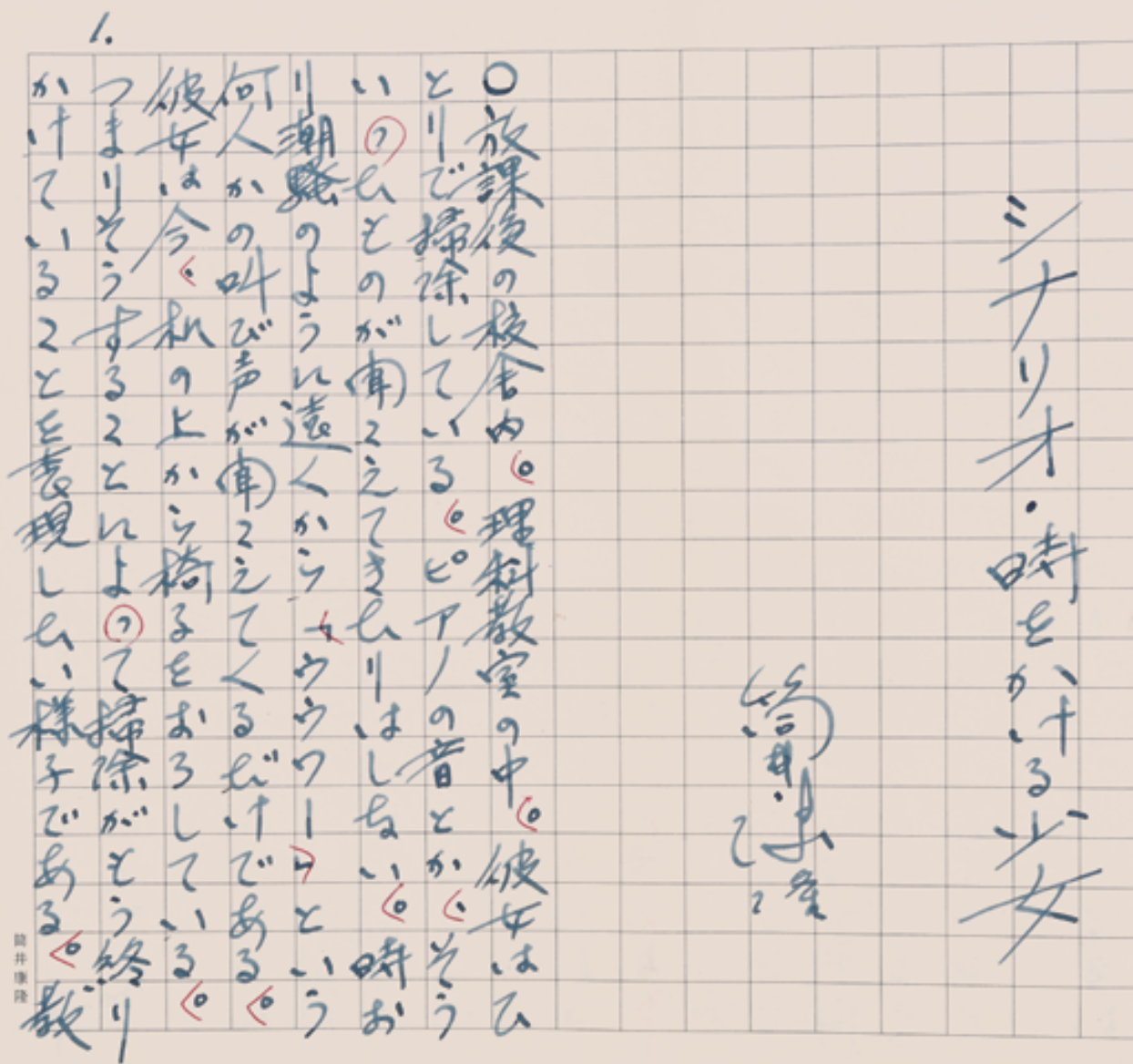


世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

特集・筒井康隆展



筒井康隆『シナリオ・時をかける少女』原稿（1983年）
原作者の筒井自身が、映画『時をかける少女』（1983年／
製作・角川春樹事務所／配給・東映）をパロディー化している。

筒井康隆展

会期：2018年10月6日(土)～12月9日(日)

会場：2階展示室



筒井康隆作品の数々

見どころⅠ
筒井康隆の「凄み」とはこのことだ！

「小説を書こう、あるいは小説家になろうと決めた時から、その人の書くものには凄みが生じる筈である。小説を書くとは、もはや無頼の世界に踏み込むことであり、良識を拒否することでもある。」（『創作の極意と掟』2014年講談社）

筒井康隆の凄みとは何か。この課題を読者はいつも自問自答せざるをえません。筒井康隆の小説に一般常識などの制限も、文学ジャンルの固定もなく、常に新しい試みが目の前に提示されるからです。

筒井作品の凄みとはいかなるものかを、展示という立体空間にあらわしてみたいと考えたことから、本展の構想は始まりました。

星新一・小松左京らとともに日本にSFを根付かせた作品群、実験的な言葉・方法論を駆使したスラップスティック作品、哲学的理論を小説へと昇華させる実験作、時代を超えて愛されるジュブナイル：膨大かつ多ジャンルの作品が、すべてひとりの作家の頭脳から生み出されたことの衝撃とスケール感を、本展で体感していただきたいと考えています。

しかも本展は、通常の展覧会の法則や構成、配置にもまったくこだわりません。そこそが筒井康隆だからです。我々読者が読み、感じたものすべてを本展に詰め込んだ先に、作家の「凄み」が現れてくることでしょう。

『時をかける少女』
『七瀬ふたたび』
『虚航船団』
『旅のラゴス』
『残像に口紅を』
『文学部唯野教授』
『モナドの領域』
…、
エンターテインメントと純文学の垣根を自由に越境、常に読者を驚かせ、魅了し続ける作家・筒井康隆さん。

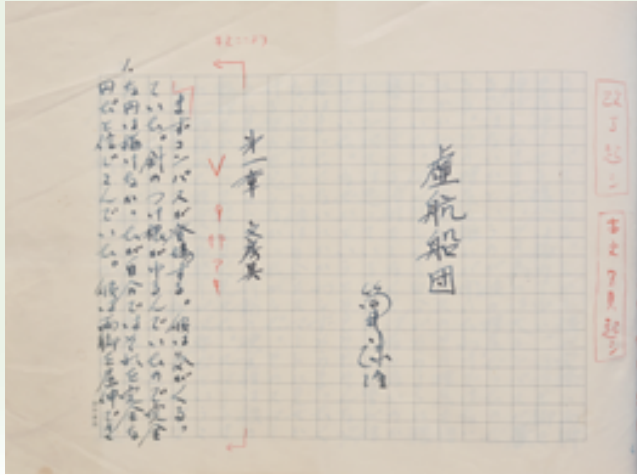
筒井さんは1960年、江戸川乱歩が編集する雑誌『宝石』に掲載された「お助け」で作家デビューし、星新一・小松左京とともに「SF御三家」と呼ばれ人気を博します。その後はSFの枠に止まらない実験小説を次々と発表し、唯一無二の筒井康隆ワールドを築き上げてきました。

2018年秋、世田谷文学館では、今なお旺盛な創作活動が続ける、現代文学最高峰・筒井康隆の世界を紹介する初の展覧会を開催します。すべてにおいて規格外のこの作家の魅力を、初公開の原稿ほか多彩な資料と、独創的な展示空間でお伝えします。



展示設計のトラフ建築設計事務所と打ち合わせ。どんな空間が出現するか、乞うご期待！

『虚航船団』直筆原稿。文房具とイタチの宇宙戦争を描いた超虚構長篇小説はこれだ！

見どころⅡ
「筒井康隆劇場」出現！

日活ニューフェイスに応募した写真(1953年)

筒井康隆の一挙手一投足を強烈に楽しむことのできる読者を「ツツイスト」と称します。本展を成り立たせるには「ツツイスト」の存在が欠かせません。1976年発足ファンクラブ名誉会長は、ジャズピアニストの山下洋輔さん。そのほか各界にも熱烈なファンが大勢います。ツツイストたちのユニークな交流と、彼らの手により集められた資料が結集するコーナーがあり、その熱量に圧倒されること間違いなしです。

筒井さんの活動は、時に世間を騒然とさせるエピソードも満載です。代表的なのは「断筆宣言」。1993年、差別用語をめぐるマスコミの脆弱さに抗議し、一切の執筆を断つこととなります。97年に出版社と覚書を取り交わし和解、執筆を再開しますが、断筆中であつても、マルチな「スタア」筒井康隆の動きが止まることはありませんでした。俳優業を本格的に再開し、山下洋輔さん、坂田明さんらジャズ・ミュージシャンが出演した「筒井康隆断筆祭」が開催されるなど、話題をさらいました。

筒井さんを取りまく楽しいエピソードを本展でもできる限りご紹介します。

このほかにも、見どころ満載の「筒井康隆展」。文学の展覧会というイメージを覆す、筒井康隆だからこそ実現できる展覧会を準備しています。どうぞお楽しみに。

筒井康隆
撮影：網中健太

学生時代は、日活ニューフェイスに応募するほどに演劇にのめりこんだ筒井さん。20歳の時に劇団・青猫座に所属し数々の公演に出演し、新聞に「新劇界今年のホープ」として、仲谷昇とともに紹介されました。しかしニューフェイス試験は面接で不合格となり、スター俳優としての歩みはいったん断たれます。しかし作家生活にはいつてからも、筒井さんにとって演劇ジャンルは、常に欠かさないものでした。

1982年、筒井さん自身が座長の「筒井康隆大一座」を立ち上げ、また自ら製作・原作・脚本・音楽・出演の『スタア』（監督・内藤誠）ほか、演劇・映像作品も数多く手掛けます。1999年には、演出家 蛭川幸雄のたつての希望で、チーフホフ作『かもめ』に作家のトリゴリーン役で出演して好評を博しました。

ニューフェイスにすんなり合格していれば、筒井さんの書く小説を私たちは手にすることがで

きなかったでしょう。今となつては、当時の試験担当者の判断に、読者として感謝をしなければなりません。現在は、文学・演劇の枠にこだわることなく、筒井さんは、あらゆる意味でステージの上で輝く「スタア」です。展示会場には、「筒井康隆劇場」が出現しますが、ここでは、『かもめ』『スタア』ほか貴重な映像をご紹介します。俳優・筒井康隆の活躍を存分にご覧いただきます。

見どころⅢ
読者との多彩なエピソード

1994年開催の「断筆祭」を記念した手ぬぐい。デザインは和田誠！

◎ プロフィール

筒井 康隆（つつい・やすたか）

1934年大阪市生まれ。1960年SF同人誌「NULL」を発刊し、江戸川乱歩に認められて作家活動を開始する。81年『虚人たち』で泉鏡花賞、87年『夢の木坂分岐点』で谷崎潤一郎賞、89年「ヨッパ谷への降下」で川端康成文学賞、92年『朝のガスパール』で日本SF大賞、2010年菊池寛賞、17年『モナドの領域』で毎日芸術賞を受賞。02年に紫綬褒章を受章。主な作品に『時をかける少女』『家族八景』『大いなる助走』『虚航船団』『残像に口紅を』『文学部唯野教授』『聖痕』など多数。舞台・テレビ出演など幅広く活躍中。

*観覧料、無料観覧日の詳細については、12頁をご覧ください。

さまざまな人々が集い、
人と人、人とモノが
交流する出会いを蚤の市で！

2015年に当館の新企画として登場した「セタブンマーケット」は、「本との新しい出会いがある場」、「文学を介した交流の場」をつくることを目指すイベントです。古書店・雑貨店・飲食店にご参加いただいた、本と食の蚤の市「セタブンマーケット」の様子をお伝えします。



- ① セタブンマーケットフライヤー /
illustr: 山中正大, design: 秋澤一彰
②～⑪ 会場の様子
⑫ 子どもから大人まで夢中になって
取り組んだネイチャーコラージュ。
公認尾瀬自然ガイドの須藤正男さん
が、出来上がった作品すべてに楽し
い講評をつけた
⑬ イラストレーターの箕輪麻紀子さん
が参加者対話し、その人だけのパス
ポートを発行した。アイデアは展
示された林美美子のパスポートから

4回目となる今回は、開催中の展覧会「林美美子 貧乏コンチクショウ」との連動企画として実施しました。6月2日、朝10時のオープンとともに、多くの方が来場しました。目指す先は、本やお菓子、コーヒー、古道具、ワークショップなど人それぞれです。終了予定時刻の15時を過ぎても、会場を見る人の姿がありました。天候にも恵まれ、1500人を超える方に、1日かぎりのマーケットをお楽しみいただきました。

美子ゆかりの地・広島の名産品が集まり、生もみじ、瀬戸内レモンのケーキ、手羽先など珍しい品が並びました。何度目かの出店となる「常連店」の、美味しい一品を心待ちにしていた地元の方もいらしたようです。

ミュージアムが果たす役割のひとつに、「地域コミュニティを活性化すること」が目標としてあげられます。この日、館の外では地域のおまつり「烏山下町まつり」が開かれました。地域催事の一部分は館内でも行われ、子どもが多く参加するワークショップコーナーの隣で、地域の武蔵山小学校による「オリンピック・パラリンピックポスター展」を

開催するなど、マーケットと融合した会場づくりをすることで、相乗的にイベントが盛り上がりました。また、マーケットの出店では、当館の最寄駅前にある芦花公園商店街の方々に初めてご参加いただきました。こうした試みをきっかけとして、地域のミュージアムらしい開かれた空間づくりを進めていければと思います。ご来場、ご参加及びご協力賜りました皆様に御礼申し上げます。

7月の西日本豪雨により、広島をはじめとする多くの地域で被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。

開催日時: 2018年6月2日(土) 10～15時
会場: 世田谷文学館 1階文学サロンほか

出店・出品者一覧(敬称略)

【本・古書】 百年と一日(文学)/古書モダン・クラシック(文学・ライフスタイル書)/MAIN TENT(絵本)/旅の本屋のまど(ライフスタイル書)/梅木書店+芦花公園商店街(地域の新刊書)
【雑貨】 amco culture & journey(工芸、雑貨、古道具)
【フード】 ひろしまブランドショップ TAU(広島名産品)/A.K Labo(パティスリー)/Bear Pond Espresso(コーヒー)/喫茶どんぐり(菓子)
【ワークショップ】 ネイチャーコラージュ(工作) 講師: 須藤正男/someone somewhere My passport(イラスト) 講師: 箕輪麻紀子

「セタブンマーケット 2018」開催報告

事前申し込み

①

トーク&オークションイベント

「わたしの筒井康隆」

第1回(11/3)・第2回(12/1)

第1部 毎回ゲストをお迎えし、所蔵の筒井作品・グッズについてのエピソード・想いを語っていただきます。

第2部 筒井さん愛蔵のSF書籍等をオークション販売します。(現金のみ受付)

第3部 筒井さんによる朗読会。

日時: 第1回 11月3日(土・祝) 18時～20時

第2回 12月1日(土) 18時～20時

出演: 第1回 筒井康隆、
菊地成孔(音楽家・文筆家)

第2回 筒井康隆、
中川翔子(タレント)

会場: 1階文学サロン

対象: 一般

定員: 各回150人(抽選)

参加費: 各回1,000円

申込: 第1回は10月20日(必着)、第2回は11月17日(必着)までに、右記[申込方法]でお申込みください。尚、全回参加ご希望の場合は、往復ハガキ2組をご用意ください。

②

筒井康隆展 記念対談「筒井康隆を語る」

筒井作品を愛読する作家・松浦寿輝さんとの豪華記念対談が実現します。筒井作品の魅力について、存分に語り合ってください。

日時: 12月8日(土) 15時～16時

出演: 筒井康隆、
松浦寿輝(詩人・小説家・フランス文学者)

会場: 1階文学サロン

対象: 一般

定員: 150人(抽選)

参加費: 1,000円

申込: 11月24日(必着)までに、右記[申込方法]でお申込みください。

「筒井康隆展」記念イベント

[申込方法]

各イベント開催日の2週間前までに、1イベントにつき1組の往復ハガキで、1. イベント名・開催日(例「トーク&オークションイベント「わたしの筒井康隆」第2回・12月1日」)、2. 参加者名・年齢(2名まで連名可)、3. 代表者の住所・電話番号を明記のうえ、世田谷文学館「筒井康隆展」係へ。返信面にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選。

※詳細はお問い合わせください。

世田谷文学館「筒井康隆展」係
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
Tel.03-5374-9111(代表)

当日参加

③ 声を楽しむ朗読会による
「筒井康隆作品を読む」

世田谷を拠点に活動する声を楽しむ朗読会が、展覧会を記念して筒井作品に挑みます。

日時: 11月24日(土) 13時30分～15時30分

出演: 声を楽しむ朗読会

進行: 福島勝則(多摩美術大学名誉教授)

会場: 1階文学サロン

対象: 一般

定員: 先着150人

参加費: 無料

申込: 当日、直接会場へお越しください。

④ 上映会「筒井康隆劇場」

会期中の毎週土・日曜日と祝日に限り、2階講義室にて、『かもめ』『俗物図鑑』『スタア』ほか、展示会場でご紹介している映像を、じっくりと鑑賞していただけます。

日時: 10月6日から12月9日までの
毎週土・日曜日と祝日

※上映時間及び上映プログラムについては、お問い合わせください。

会場: 2階講義室

対象: 一般

定員: 先着50人

参加費: 無料

申込: 当日、直接会場へお越しください。



菊地成孔



中川翔子



松浦寿輝

『澁澤龍彦の記憶』刊行

2017年2、3月と10、11月の前後期にわけて開催された連続講座「夢と綺想の球体 澁澤龍彦」をもとにした書籍が、河出書房新社より刊行されました。



『澁澤龍彦の記憶』
2018年4月30日初版発行
編者＝菅野昭正
発行＝河出書房新社
定価＝本体2,600円＋税

澁澤龍彦さんの没後三十年に当たる二〇一七年十月から十二月にかけて、世田谷文学館は「澁澤龍彦 ドラマの地平」と銘打って、独自の異彩に富む文藝をあらためて顕彰する展覧会を開催しました。五十九歳で早世を惜しまれた澁澤さんの遺した文学世界が、どのような生成の過程をたどって結実されたのか、草稿をはじめ数々の資料の展示を通して、その秘密を探ってみようというところから立案された企画でした。……この展覧会に連動するかたちで、「夢と綺想の球体 澁澤龍彦」と題する連続講座を開催しました。……澁澤さんの著作は、新鮮な魅力を放って若く新しい読者に迎えられているようですが、とくにそうした知的な意欲の旺盛な読者層にとって、この連続講座が夢想、綺想、幻想の球体について深くわけいるためのまたとない道標となることを期待しています。(本書「あとがき」より)

目次

はじめに 澁澤龍彦への出発
心に鶴を飼う世代
――澁澤龍彦の時代とその後
贅沢な忘れ者
澁澤龍彦と70年代の高校生
澁澤龍彦の想像の画廊
澁澤龍彦の宇宙誌
澁澤龍彦の文学世界
あとがき
菅野昭正
養老孟司
池内紀
中沢けい
酒井忠康
巖谷國士
巖谷國士
菅野昭正

北杜夫コレクション 茂吉遺品・真筆類 ― 殊に歌集稿本について ―

秋葉四郎

(一)

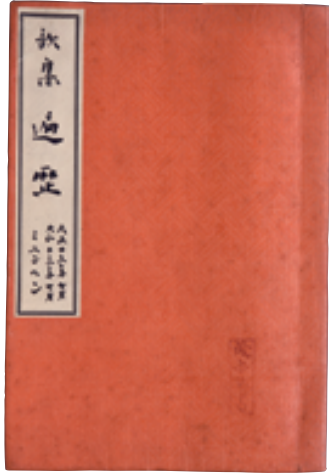
北杜夫・斎藤宗吉は斎藤茂吉の次男で、父茂吉のつよい願いと並々ならぬ助言によって医師になったが、本来は昆虫学者になることが希望であった。昆虫についての博識は少年時代からで、父茂吉の歌の昆虫に関する誤りを正している例もある。旧制松本高校生時代から文学に目覚め、父茂吉の歌集『赤光』、『あらたま』などの歌に共鳴し、自ら作歌も試み、歌人茂吉を尊敬するまでになった。やがて純文学の小説家・作家として大成し、『どくとるマンボウ航海記』、『夜と霧の隅で』、『芥川賞』、三島由紀夫が激賞した長編小説『榆家の人びと』などを世に送り、友人の遠藤周作、阿川弘之、辻邦生らと共に小説家として揺るぎない地位を確保している。その上に父茂吉を書いたエッセイ四部作『青年茂吉』、『壮年茂吉』、『茂吉彷徨』、『茂吉晩年』（いずれも岩波書店）があり、旧制高校で、父茂吉の影響で作り始めたという歌集『寂光』も刊行されている。

そんな北杜夫が父茂吉の遺した膨大な真筆類を自ら求めたであろうし、あるいは母輝子や兄茂太夫妻が息子、弟の作家生活を支援する思いも当然あつたであろう。北杜夫コレクションに茂吉資料・真筆類が多い事には必然性がある。だから作家北杜夫に益する内容が多いようにも感じられる。例えば「森鷗外の書掛軸」、「茂吉旧蔵幸田露伴書」「室生犀星短冊」「茂吉書陶淵明詩」、「茂吉書色紙」多数、「茂吉書短冊」多数、「茂吉

八月岩波書店刊行。昭和十六年夏に毛筆により浄書、編集を終えていたことが分かっている。

第五歌集『遍歴』

四十二歳から四十二歳までの作品。大正十二年七月、ドイツミュンヘン到着の日から大正十四年一月東京帰着まで。昭和二十三年四月に岩波書店から刊行されている。『遠遊』同様、昭和十六年



歌集稿本『遍歴』

夏に毛筆による浄書・編集を終えていた。ヨーロッパ留学から十六年余を過ぎての、浄書だから、この当時の茂吉の力量が加味されていようか。

第六歌集『としび』

四十三歳から四十六歳までの作品。大正十四年ヨーロッパから下船後の作から、昭和三年までの内容。昭和二十五年一月岩波書店刊行。歌集後期に「この歌集『としび』の編輯清書（註、毛筆による）はずつと以前既に昭和四年ごろに出来てゐた」とある。前の歌集などと筆跡を比べてみるとあまり変わっていないから、後の手も加わっていることがわかる。

書半折」多数、「茂吉画」掛け軸等、絵画多数。「斎藤輝子あて書簡」、「斎藤宗吉あて書簡」多数、「高村光太郎茂吉あて書簡」「茂吉旧蔵正岡子規書簡」、「茂吉短歌断簡」多数、「茂吉書実相観入」、「芥川龍之介茂吉あて書簡」多数、等々。明らかに、作家北杜夫が意識された茂吉遺品であり、真筆である。一覧になった資料をざつと数えてみると、宗吉宛葉書など小物、愛用された旅行鞆、未使用茂吉原稿用紙なども含めて三四〇点余の茂吉遺品・真筆類である。これらは、当然、何らかの意味で北杜夫の作家活動にかかわっていたに違いない。

この茂吉資料が、北杜夫自身の遺品・真筆類と一緒になつて、生前の北杜夫の遺志により、世田谷文学館に寄贈され、所蔵されている意味は大きく、今後の北杜夫研究、斎藤茂吉研究に与するところ甚大である。近現代に活躍した親子の文学者、歌人、小説家、エッセイストを結び付けていたものは何か。探求する文学の徒に投げかけていることは限らない。

(二)

就中、斎藤茂吉が心血を注いで書き残している毛筆の歌集稿本十冊が北杜夫のもとに大切にされていたことは殊更感慨深い。同じ文筆家として改めて刺激を受けたに違ひなからうし、父茂吉の作品への偉大なる執着、思い入れを身に沁みて感じたのではあるまいか。茂吉は歌集となる原

第七歌集『たかはら』

四十七歳から四十八歳までの作品。昭和四年の作歌及び昭和五年歌集『連山』に収めた以外の作歌を収めている。昭和二十五年六月岩波書店刊行。毛筆による筆跡を比べてみると昭和十五年以降の浄書と思われる。

第八歌集『連山』

昭和五年、満州各地から北平（北京）を歴遊した四十八歳の作品。昭和二十五年十一月に岩波書店から刊行。昭和十五年から十七年位の間に毛筆によりまとめられたものである。

第十歌集『白桃』

昭和八年及び九年、五十一歳から五十二歳までの作歌。『白桃』Ⅰ（昭和八年）と『白桃』Ⅱ（昭和九年）の二分冊の歌集稿本になっている。昭和十七年二月岩波書店刊行。後記に「昭和十六年十一月吉日」とあるのは、このあたりに未刊歌集のすべてを毛筆による整理、清書したものとされる。なお、新全集巻末記を見ると「昭和九年『浜原』第三首の『はまわら』といふ振仮名は、特に発音を示す意味で附されてゐるのである」とあ

稿を毛筆により、活字以上に美しい文字により、

浄書し製本して残しているのである。そう言えば山梨県立文学館での北杜夫展に小説『榆家の人びと』のペン書き原稿がきちんと製本されて展示されていたのを思い起こす。私は同じ歌人、創作者の一人として、こうしたものの存在に深く敬意を表し、改めて首を垂れ、その緻密さ、作品愛に打ちのめされる思いさえいだいた。拝見した歌集稿本を紹介し、今後の研究等の一助に供するゆえんである。

第三歌集『つゆじも』

大正七年から十年までの作歌、作者三十六歳から三十九歳までにあたる。戦後の昭和二十一年八月に岩波書店から刊行になっている。「長崎詠草」が昭和十五年に整理され、翌昭和十六年にこの歌集の毛筆による浄書がすべて出来ていたことが分かっている。既に「赤光」（大正二年）、『あらたま』（大正十年）、『暁紅』（昭和十五年）『寒雲』（昭和十五年）を世に送つてあつたが、空白となっている間の作品を清書し、歌集稿本として残していたのである。

第四歌集『遠遊』

四十歳から四十一歳までの作品。大正十一年オーストリアウィーンに到着してから、大正十二年ウィーンを去るまでを収めている。昭和二十二年

る。編集者の力量に私はひどく感心したが、この歌集稿を見ると作者茂吉自身が原稿に指示していたものである。

『白桃』稿本の一部、右上に茂吉自身が『ワラ』と発音と記入している（図版参照）。新全集はこれに拠っている。人麿研究の考証に参照したのであつたらうか。

第十一歌集『暁紅』

昭和十年及び十一年、五十三歳から五十四歳の作歌である。昭和十五年六月岩波書店刊行。毛筆自筆のこの稿本を参照したから、前回全集「山百合を花瓶にさし香にたつを」を誤写とし「山百合の花瓶にさし」としていたものを原作に戻している。いわばそれほど、茂吉の稿本は丁寧であり、正確である。その意味でも貴重といえる。

第十四歌集『霜』

昭和十六年及び十七年、作者五十九歳から六十歳までの作歌である。昭和二十六年十二月岩波書店刊行。昭和十六年、十七年に毛筆による整理清書され『いきほひ』（十六年作）、『とどろき』（十七年作）として編集されていた。その内から戦争に関係しない作品が選ばれて一巻となつて

資料受贈報告

2018年2月1日～6月22日

▼遠藤和枝様 尾上美紀様 川島一夫様 大田美和様 東山あかね様 堀越胡流様 町田まり子様 宮崎潤一様 山本幸久様

▼阿部知二研究会 伊豆市教育福祉部社会教育課 井上靖記念館 茨城県常総市節のふるさと文化づくり協議会 いわさきひろ記念事業団 うらわ美術館 小田原市郷土文化館 お茶の水女子大学学芸員課程 賀川豊彦記念松沢資料館 学習院大学史料館 かごしま近代文学館 柏書房 KADOKAWA文芸ノンフィクション局 金沢泉鏡花フェスティバル委員会事務局 金沢文化振興財団 紙の博物館 北九州市立文学館 北九州市立松本清張記念館 北日本歌壇の集い 呉工業高等専門学校 高志の国文学館 江東区砂町文化センター 神戸女学院大学文学部 こおりやま文学の森資料館 國學院大学博物館学研究室 国際メディア・女性文化研究所 国文学研究資料館 斎藤茂吉記念館 佐佐木信綱研究会 昭和女子大学光葉博物館 書肆侃侃房 白百合女子大学言語文学研究センター 草露会 大正大学歴史学科博物館学芸員過程 たましん地域文化財団 千葉市美術館 中央公論事業出版 帝国データバンク史料館 徳島県立文学書道館 豊島区文化デザイン課 ミュージアム開設準備学芸グループ 新美南吉記念館 西尾市教育委員会 日本近代文学館 日本現代詩歌文学館 日本トルストイ協会事務局 野田宇太郎顕彰会 林芙美子の会 飯能市教育委員会生涯学習スポーツ部生涯学習課 姫路文学館 非文字資料研究センター 文京区立森鷗外記念館 北海道文学館 松山市立子規記念博物館 三島市郷土資料館 三鷹市山本有三記念館 山梨県立文学館 結城市文化・スポーツ振興事業団 横光利一文学会 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 立正大学文学部 早稲田大学教育学研究近代文学ゼミ

▼「阿房芋」「海」「海紅」「街道」「風」「かねこと」「くさくさ」「群系」「原型富山」「鴻」「香蘭」「心の花」「埼東文学」「山暦」「春耕」「抒情文芸」「川柳研究」「双鶯」「タクラマカン」「蠶」「タルタ」「短歌人」「地中海」「飛火」「白」「翡翠」「ブチ★モンド」「文章歩道」「窓」「ゆく春」「ランブル」「りんごの木」

（五十音順・団体名敬称略）

いる。新全集はこの稿本を参照している。

第十六歌集『白き山』

昭和二十一年及び二十二年、茂吉六十四歳、六十六歳、山形県大石田疎開中の作歌が収められている。昭和二十四年八月岩波書店発行。昭和二十三年七月から八月にかけて毛筆により整理清書された（日記）。他に私が館長を務める山形県上山市の斎藤茂吉記念館には第十五歌集『小園』稿本が所蔵されている。昭和十八年から昭和二十一年疎開先の上山市金瓶を去るまで、作者六十一歳から六十三歳までの作歌で、戦争に関係しない作品が選ばれている。昭和二十三年八月に清書編集が済み、昭和二十四年四月に岩波書店から刊行されている。

なお、歌集稿本の第十二歌集『寒雲』については世田谷文学館には、昭和十四年分の綴があり、茂吉記念館には昭和十二年及び十三年の綴がある。『寒雲』は昭和十二年、十三年、十四年の作品だから併せれば毛筆による歌集稿本として完成する。両館の交流が期待される。（歌人・斎藤茂吉記念館館長）

＊ご紹介いただいた、北杜夫旧蔵資料の歌集稿本などは、「平成30年度コレクション」展前期「新収蔵・北杜夫コレクション」を中心にぜひご覧いただけます。



図版 歌集稿本『白桃（昭和九年）』より

コレクション展 展示風景



前期「Ut pictura poesis—詩は絵のように
コレクションにみる文学を彩る書画の魅力」



後期「SF再始動」

企画展 展示風景



「山へ！ to the mountains展」



「ムットーニ・パラダイス展」



「ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる」



「澁澤龍彦 ドラコニアの地平」

イベント



8月6日、9月16日 ワークショップ「pipioといっしょに
おはなしとあそびのじかん」「山のぼり大作戦！」
講師：武本佳奈絵、平澤朋子



9月23、24日「本作り」ワークショップ 第2回
「だれでも絵描き～気持ちの絵を描こう～」
講師：吉田花子、横山杏奈、佐藤真紀



12月1日「0才からのジャズコンサート」
出演：クニ三上、池田聡、則武諒



10月21日 連続講座「夢と幻想の球体—澁澤龍彦—」
後期①「澁澤龍彦 文学の旅」講師：巖谷國士



9月16、17日
セタプンマーケット2017



7月29日～8月13日 どこでも文学館 出張展示
「大竹英洋 北の森ノースウッズの世界」(モンベル渋谷店)

平成29年度は大規模改修工事に伴う半年間の休館を経てのリオープン的一年でもあり、ライブラリーの機能向上など新たなチャレンジをした年となり、利用者総数は17万人台を記録した。

企画展示「ムットーニ・パラダイス」のからくり劇場は、人形と装置の多様な動きにあわせ、音楽、効果音、光、語りなどの要素が重なり合いながら物語が表現される他に類を見ないアート作品であり、館蔵の7台は開館以来の人気コレクションでもある。今回は「ムットーニこと武藤政彦(1956-)」の初期から最新作まで30年の作家活動を総覧する大規模な展覧会であり、本人によるギャラリートークも多数回実施、会期後半にはNHKの「日曜美術館」にも取り上げられ、多くの来場者で賑わった。

「山へ！ to the mountains展」は、「百の頂に百の喜びあり」(深田久弥のコンセプトのもと、山というフィールドで繰り広げられた多様な「知」と「表現」に迫った。小島鳥水(日本のアルピニズムの祖)、深田久弥(文学)、田辺和雄(植物学)、吉阪隆正(建築学)、坂本眞一(漫画)、石川直樹(写真)、田部井淳子(生活)の7人を紹介、山岳写真や石の実物もあわせて展示し「体験的に山の魅力を伝える」展示空間の創出を試みた。本展は新たなテーマや手法へのチャレンジでもあり、集客には苦戦したが、初めての来館者が半数以上であるなど新規の利用者の獲得につながった。

「澁澤龍彦 ドラコニアの地平」は、サドなどのフランス文学の翻訳、異色の文化史や美術論、博物誌をテーマにしたエッセイ、幻想小説など幅広い執筆活動を展開し、1960年代以降のわが国の文化芸術に影響を与えた澁澤龍彦の没後30年を記念して開催した。豊富な原稿、自筆資料を中心に、関連する美術品や博物学資料など500点を超えるボリュームで構成した。往年のファンのみならず、10代から30代が来場者全体の4分の1を占めるなど幅広い

世代が来館した。

毎日新聞社と共同企画した「ミロコマチコ」いきものたちの音がきこえる」は、内外の絵本賞を立て続けに受賞し、今最も注目される作家「ミロコマチコ(1981-)」の初の全国巡回展。代表作の絵本原画だけでなく、大型作品を含む絵画や立体等によるダイナミックな展示を試みた。会期中には展示室内での公開制作や、子どもたちの公開ワークショップなどを実施、幼児から高齢者まで幅広い世代が訪れ、作家との距離の近さが実感できる展覧会となった。

コレクション展は前期「Ut pictura poesis 詩は絵のように」コレクションにみる文学を彩る書画の魅力」、後期「SF再始動」を開催、それぞれ美術資料や特撮関連資料などを中心に調査研究の成果を反映させた。

菅野館長プロデュースによる「連続講座」は「澁澤龍彦 ドラコニアの地平」展会期中に、28年度に引き続いて澁澤龍彦をテーマに講座を開催。前後期6回の講演録の書籍化にも協力した。

出張展示や館内外でのワークショップなどの活動を行う「どこでも文学館」では、のべ29回の出張展示、19回のワークショップを実施した。新たな試みとして小説の創作から、表紙画の制作、製本までを連続して学ぶ「本作りワークショップ」と新作の出張展示キット2種を制作した。

第34回となる「世田谷文学賞」では、短歌・俳句・川柳・詩・随筆の5部門から作品を募集、入賞作については、高い評価を選考委員からいただいた。

改修工事後の再開に伴いリニューアルしたライブラリー「ほんとう」では、授乳室を備えた親子のための本のエリアを設けたのをはじめ、「0歳」といっしょにおはなしとあそびの時間」、「0歳からのジャズコンサート」を実施するなど、乳幼児とその保護者を対象に事業の枠を広げた年でもあった。

ほんとう



子どものためのエリア



大人のためのエリア



授乳室



「ほんとう」でのワークショップ



セレクトブックコーナー

2017(平成29)年度事業一覧

1 展覧会							
展覧会名	会期	日数	一般観覧料(円)	観覧者数(人)			
◎コレクション展				21,217			
前期「Ut pictura poesisー詩は絵のようにコレクションにみる文学を彩る書画の魅力」	4/29～9/18	124日	80～200円	11,052			
後期「SF再始動」	10/7～3/31	136日	80～200円	10,165			
◎企画展				41,080			
ムットーニ・パラダイス展	4/29～6/25	61日	800円	13,889			

2-1 イベント：展覧会関連			2-2 普及事業：どこでも文学館		
開催日	内容	参加者数(人)	開催日	内容	参加者数(人)
◎「ムットーニ・パラダイス展」関連イベント			◎どこでも文学館(出張展示)		
4/29～6/25 (計38回)	ギャラリートーク 講師：武藤政彦	4,214	通年	世田谷文学館、区内小中学校、 区民センター、群馬県川場村・ 区民健康村など	59,147 (29か所)
5/6、5/20、 6/17	スペシャルトーク 講師：武藤政彦	152	◎どこでも文学館(催事)		
6/17	「露天商・楽園」 出店：武藤政彦	130	6/3	ワークショップ「ネイチャーコラージュ」 講師：須藤正男	181
◎「山へ！ To the mountains 展」関連イベント			8/2	ワークショップ「超ショートショート講座：初級編」 講師：田丸雅智	28
8/19	講演会「地学で旅する日本列島の山たち」 講師：加藤碩一	161	8/5	施設見学「“体験型博物館”「食と農」の博物館見学会」 講師：黒沢弥悦、今木明	7
8/29	ワークショップ「山×身体 やまは“からだ”」 講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部	20	8/20	ワークショップ「超ショートショート講座：中級編」 講師：田丸雅智	27
9/16	ワークショップ「衣服を描く」 講師：寺本愛	14	9/9、10	「本作り」ワークショップ 第1回「だれでも小説家 ～ショートショートを書こう～」 講師：荒居蘭	40
9/17	講演会「『てっぺん わが妻・田部井淳子の生き方』 講師：田部井正伸	31	9/16、17	ワークショップ「ネイチャーコラージュ」 講師：須藤正男	216
◎「澁澤龍彦 ドラコニアの地平展」関連イベント			9/23、24	「本作り」ワークショップ 第2回「だれでも絵描き ～気持ちの絵を描こう～」 講師：吉田花子、横山杏奈、佐藤真紀	36
11/12	「澁澤龍彦をめぐるトーク」 出演：榎本了亮、四谷シモン	187	10/14	「本作り」ワークショップ 第3回「だれでも製本家 ～本の形に仕立てよう～」 講師：佐藤真紀、中野裕子	18
12/9、10	「澁澤龍彦 セレクト書店」 出店：ノストスブックス	578	10/29	ワークショップ「くんくん旅人@世田谷文学館 ～自然と書籍のにおいを楽しもう～」 講師：井上尚子、白須未香	7
◎「第36回 世田谷の書展」関連イベント			11/27	ワークショップ「芦花小学校+大竹英洋ワークショップ(1日目)」 講師：大竹英洋	147
1/10、12、 13	「世田谷の書展」鑑賞講座 講師：稲村龍谷、田中栄子、荒谷大丘	110	11/28	ワークショップ「芦花小学校+大竹英洋ワークショップ(2日目)」 講師：大竹英洋	147
◎「ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる」関連イベント			11/30	ワークショップ「芦花小学校+大竹英洋ワークショップ(3日目)」 講師：大竹英洋	144
3/3、4	「古書トズボックス」 出店：土井章史	677	1/21	ワークショップ「ワン・ミニット・ムービー～冒険物語をつくろう!～」 講師：北阪昌人、本田友美	19
3/24	ライブペインティング 出演：ミロコマチコ、haruka nakamura ほか	219			

3 ライブラリー・講義室等						
施設	利用者数(人)					
ライブラリー「ほんととわ」	27,645					
講義室	2,004					
くつろぎスペース	7,751					
4 世田谷文学賞						
募集部門	詩	短歌	俳句	川柳	随筆	合計
応募点数	40	44	81	64	38	267
入賞者数	16	16	16	16	4	68
5 文学資料収集・保管(点数)						
平成29年度収蔵点数	1,145点					
平成29年3/31現在の収蔵品点数	99,635点					
特別観覧件数(撮影点数)	12					
7 年間来館者数						
※一部イベント参加者は含まず						
172,363人						

＊2017(平成29)年度 助成・協賛
[助成] 芸術文化振興基金/平成29年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
[協賛企業・団体] 株式会社ウテナ/東邦ホールディングス株式会社/昭和信用金庫/世田谷信用金庫/株式会社ベネッセスタイルケア 芦花翠風邸/烏山駅前通り商店街振興組合

6 刊行物	タイトル	判型/頁数	頒価(円)
◎世田谷文学館ニュース			
第66号8月	館長の作家対談：小池昌代/当館収蔵品のご紹介：福田純監督書き込み入り『ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘』台本	A4/12	無料
第67号12月	館長の作家対談：松浦寿輝/当館収蔵品のご紹介：〈日本SFの父〉海野十三が設計した「秘密の書斎」	A4/12	無料
第68号4月	館長の作家対談：馬場あき子/当館収蔵品のご紹介：《斎藤茂吉旧蔵 諸家短冊帖》より平福百穂短冊	A4/12	無料
◎展覧会図録			
「ムットーニ・パラダイス展」図録		B6/112	1,500
「山へ! to the mountains 展」図録		B6/80	1,000
「澁澤龍彦 ドラコニアの地平」図録(平凡社発行)		B5変形/260	2,400
「ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる」図録(毎日新聞社発行)		250×212mm/151	2,130
◎その他			
文芸せたがや第34号		A4変形/112	400
どこでも文学館報告書2017		B2(4ツ折)/1	無料

イベントフライヤー



セタブンマーケット 2017



第34回世田谷文学賞

年間カレンダー

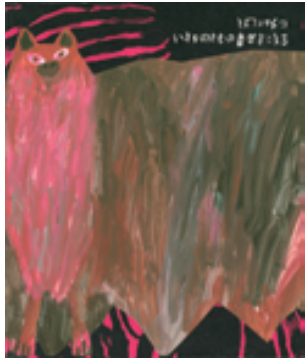


年間カレンダー 2017

発行物



文芸せたがや第34号



ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる図録
(毎日新聞社発行)



澁澤龍彦 ドラコニアの地平図録
(平凡社発行)

展覧会フライヤー



山へ! to the mountains 展



ムットーニ・パラダイス展



ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる



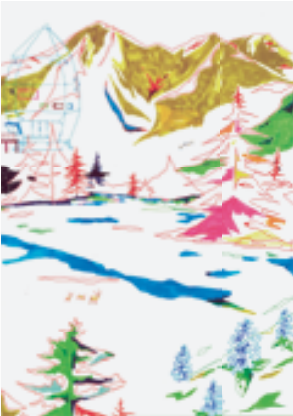
澁澤龍彦 ドラコニアの地平



コレクション展 前期
「Ut pictura poesisー詩は絵のようにコレクションにみる文学を彩る書画の魅力」



第36回 世田谷の書展



山へ! to the mountains 展図録



ムットーニ・パラダイス展図録

企画展

ビーマイバイビー
信藤三雄
レトロスペクティブ

開催中～9月17日(月・祝)
2階展示室

観覧料:
一般 800(640)円
高校・大学生・65歳以上 600(480)円
中学生以下無料
障害者手帳をお持ちの方 400(320)円
*()内は20名以上の団体割引
*9月17日(月・祝)は60歳以上無料



ピチカート・ファイヴ
「スウィート・ピチカート・ファイヴ」
(TRIAD/1992年)
AD: 信藤三雄
D: 藤川浩一

筒井康隆展

10月6日(土)
～12月9日(日)
2階展示室

観覧料:
一般 800(640)円
高校・大学生・65歳以上 600(480)円
小・中学生 300(240)円
障害者手帳をお持ちの方 400(320)円
*()内は20名以上の団体割引
*10月12日(金)は65歳以上無料



筒井康隆

企画展	ビーマイバイビー 信藤三雄レトロスペクティブ ～9月17日(月・祝)	筒井康隆展 10月6日(土)～12月9日(日)
8月	9月	10月
コレクション展 前期 新収蔵・北杜夫コレクションを中心に ～9月17日(月・祝)		11月
		後期 蘆花生誕150年 徳富蘆花と烏山ゆかりの文学者たち(仮) 10月6日(土)～2019年3月31日(日)予定

コレクション展

前期 新収蔵・北杜夫コレクションを中心に
～9月17日(月・祝) 1階展示室

後期 蘆花生誕150年
徳富蘆花と烏山ゆかりの文学者たち(仮)
10月6日(土)～2019年3月31日(日)予定 1階展示室



観覧料:
一般 200(160)円
高校・大学生 150(120)円
小・中学生、65歳以上・障害者手帳をお持ちの方 100(80)円
*()内は20名以上の団体料金
*土・日・祝日は小・中学生無料
*10月12日(金)と1月25日(金)は65歳以上無料

せたがや文化財団の催し物

■世田谷美術館

[Tel. 03-3415-6011]

- 民家の画家 向井潤吉 人物交流記
9月8日(土)～11月4日(日)



向井潤吉《遅れる春の丘より》[長野県北安曇野郡白馬村北城] 1986年 世田谷美術館蔵

- ブルーノ・ムナリー
―役に立たない機械をつくった男
11月17日(土)～2019年1月27日(日)

- 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館
[Tel. 03-5450-9581]

- 向井潤吉 民家の旅 風土のかたちを求めて
9月8日(土)～2019年3月17日(日)

- 世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー
[Tel. 03-3416-1202]

- 清川泰次 昭和の学生旅行
9月8日(土)～2019年3月17日(日)

- 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館
[Tel. 03-5483-3836]

- 宮本三郎 装飾性の展開
9月8日(土)～2019年3月17日(日)

- 世田谷文化生活情報センター
世田谷パブリックシアター
[Tel. 03-5432-1515(チケットセンター)]

- 現代能楽集IX『竹取』
10月5日(金)～17日(水)
シアターラム
構成・演出: 小野寺修二
脚本: 平田俊子

音楽: 阿部海太郎
企画・監修: 野村萬斎
出演: 小林聡美 貫地谷しほり ほか



現代能楽集IX『竹取』 撮影: 久家靖秀

- 『The Silver Tassie 銀杯』

11月9日(金)～11月25日(日)

作: ショーン・オケイシー

翻訳・訳詞: フジノサツコ

演出: 森新太郎

中山優馬 矢田悠祐 横田栄司 浦浜アリサ

安田聖愛 土屋佑老 山本亨 青山勝

長野里美 三田和代 ほか

- 世田谷文化生活情報センター
生活工房 [Tel. 03-5432-1543]

- クライム・エブリ・マウンテン vol.2
「漆がつなぐ、アジアの山々」展

9月1日(土)

～10月21日(日)

生活工房ギャラリー

- 人はあそぶー
メキシコ民芸玩具展

10月27日(土)

～12月9日(日)

生活工房ギャラリー



グメルシンド作
「ターザンとワニ」

- 世田谷文化生活情報センター
音楽事業部 [Tel. 03-5432-1535]

- 宮川彬良の
せたがや音楽研究所 #10
～これが俺のノスタルジー～
9月15日(土) 17時
世田谷区民会館



宮川彬良 ©PACO

開館時間:
10時～18時(展覧会入場
は17時30分まで)

休館日:
毎週月曜日(月曜日が祝日
の場合には開館し、翌平日
休館)

[交通案内]

京王線「芦花公園」駅南口
より徒歩5分/

小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用
「芦花恒春園」下車徒歩5分

公益財団法人せたがや文化財団

世田谷文学館 SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

Tel. 03-5374-9111 Fax. 03-5374-9120

ホームページ <http://www.setabun.or.jp/>

